

大学の世界展開力強化事業（平成28年度採択）事後評価結果

大学名	早稲田大学
整理番号	A②-9
事業名	多層的紛争解決・社会変革のためのグローバルリーダー共同育成プログラム

◇大学の世界展開力強化事業プログラム委員会における評価

総括評価 A	事業計画どおりの成果をあげており、事業目的は実現された。
コメント 本事業は、当初、多層的紛争解決・社会変革に対して革新的な提案を行い、それを実践し得る次世代リーダーを育成すべく、早稲田大学、北京大学及び高麗大学校と共同で学部学生を対象とした教育プログラムを開発・実践することを目指した事業であったが、中間評価時点では計画していた目標値を大幅に下回る状態であった。中間評価終了後、プログラム実施体制の再検討及び学内連携の強化、学生交流の活発化に向けたプログラム内容等の見直しを行い、事業内容を大幅に改善し取り組まれた事業である。 事業展開では、ダブルディグリーを中心とした正規プログラムに加え、キャンパス・アジアの提供科目をベースに開発された全学副専攻プログラム(Conflict Resolution:From Asia's Perspective)の展開で、延べ1,336名が履修(内488名が英語科目を履修)しており、本事業が広く学生に認知され関心の拡大に繋がった。更に、キャンパス・アジア専用ウェブサイトを構築し、交流情報や実施プログラムの公開、経験者の留学体験記動画やSNS展開を実施しており、令和3年3月時点で36,000回を超えるPVを達成している。また、アラムナイ・ネットワーク(CAMPUS Asia Alumni of Waseda, Peking & Korea Universities(WAPEKO))が学生主体で組織される等、普及が進んでいる点は高く評価できる。中間評価終了後、本事業のプログラム委員会を国際担当理事の直轄組織とし、留学センターをはじめ関連部局との連携強化、Waseda Vision 150の中核事業と位置づける等早稲田大学が本来持つポテンシャルが機能し、大幅な改善を果たした点も高く評価できる。国際担当理事は北京大学、高麗大学校を個別に訪問し、それぞれの副学長レベル等に取組連携を呼びかけることで、トップダウンによる連携強化を図った。加えて、学生募集機会の増大、学内関係教員を増加させ学生に近い立場から直接広報を行ったこと、教職員が北京大学、高麗大学校へ行き直接的なリクルート活動を行ったこと、当該プログラム参加学生の広報協力を得たこと等により、積極的な情報提供活動を展開し、学生が参加しやすい環境や一層の支援体制を実現する取組を行ったことが参加学生数の増大に寄与した。 一方で、今後の展開として、本事業で形成された人的資産を活用し、日中韓の長期的なネットワークの構築・拡大に繋げていくとあるが、今後の事業展開についての説明が具体性に欠けており、特に予算面での裏付けが明確に示されていない。今後の事業展開に関する方針の一層の可視化が望まれ、内容について更なる検討が必要である。 最後に、大学の世界展開力強化事業による補助期間は終了したが、引き続き質保証を伴う発展的な事業展開の実施によって、我が国の大学教育を牽引し、更なるグローバル展開力の強化に寄与されることに期待する。	